

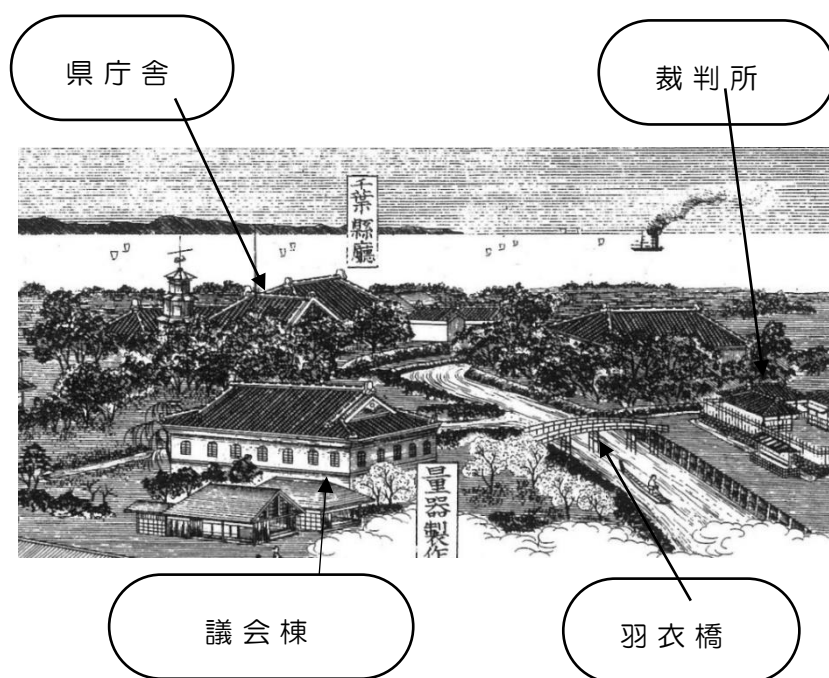
## 房総のむら 管理棟

(1)概要 房総のむらの出入り口付近に建つ「房総のむら管理棟」は、明治13年(1880)に建てられ、明治44年(1911)まで使用された千葉県議会の議事棟(2代目)の外観を、写真や銅版画から再現したものです。

ベランダやポーチ、上下式のガラス窓、下見板張り、棟飾り、ペンキ塗装等の洋風要素と共に、本瓦葺きの入母屋屋根、軒先と破風の塗り籠め等の和風要素が混在した擬洋風の木造建築です。



(2) 県議会棟について 明治6年(1873)に千葉県ができるのと、翌年、千葉市の現在地に伝統的な日本建築の県庁舎と議会棟が造られました。議会では道路や学校整備などの地方税の使途や、県民困窮による予算削減等も議論されたため、傍聴希望者が多かったことから、議員や傍聴人の増加に対応して建てられたのが2代目議会棟です。明治14年(1881)の席次表によると、長いコの字形の机に54名の議員が座り、県令等と向かい合っています。その両側が傍聴席で定員120名でした。



昭和61年国書刊行会『目で見える千葉県の明治時代』より一部転載